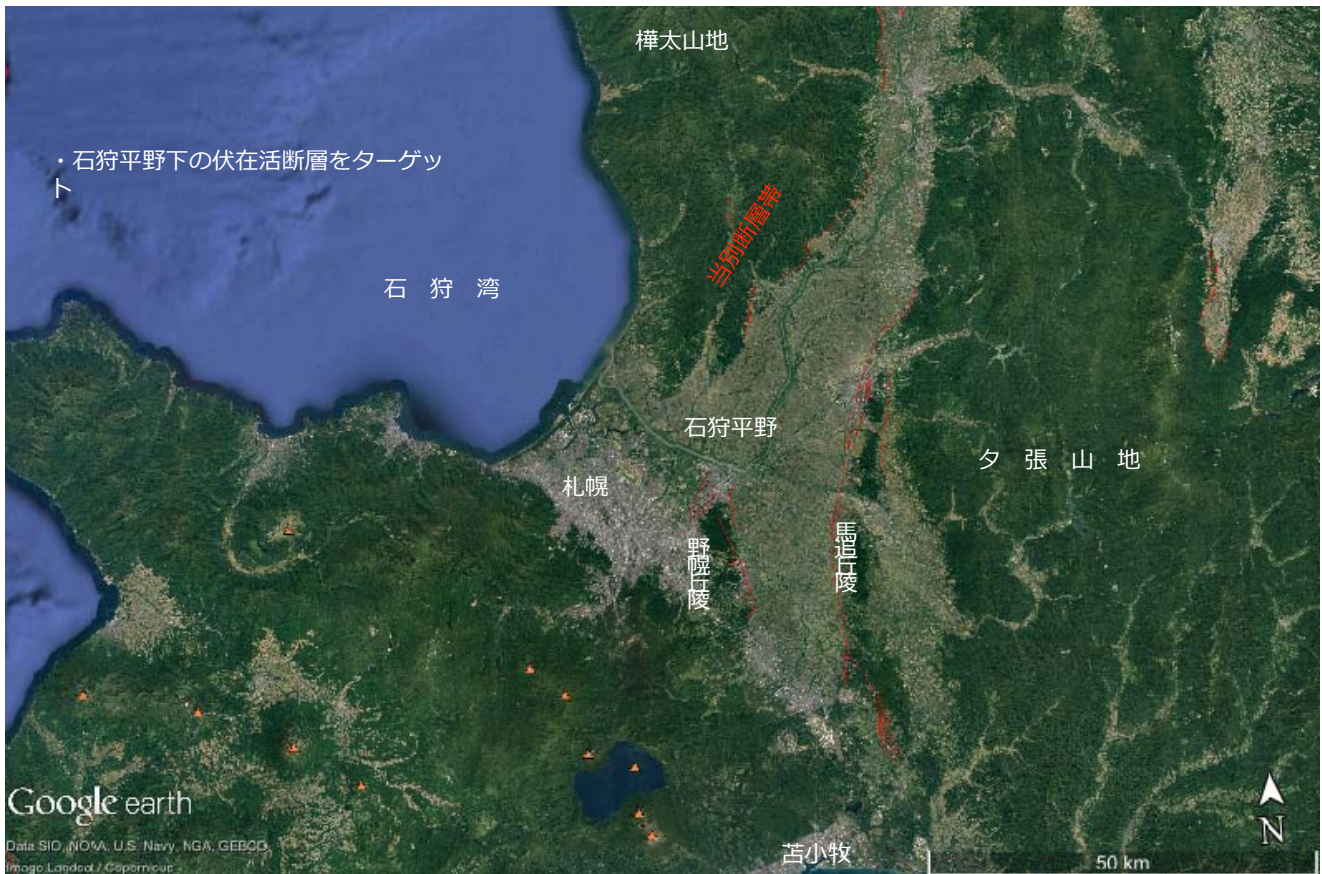


## 2-3 沿岸海域および海陸統合構造調査 陸上区間

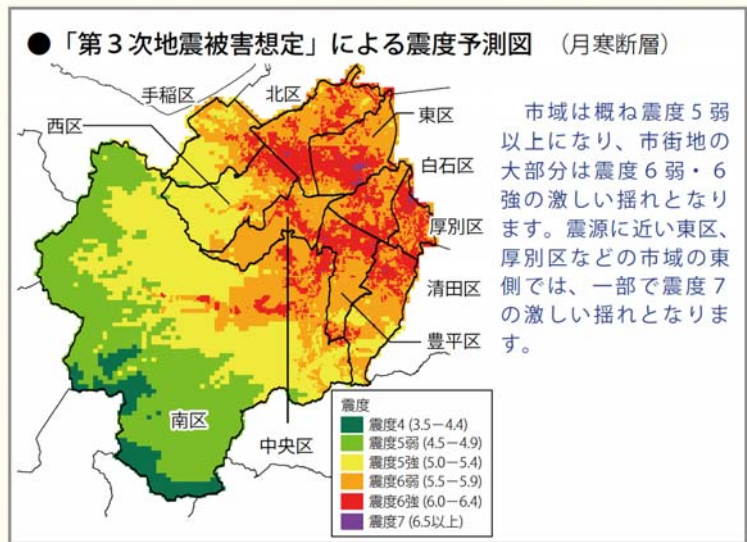
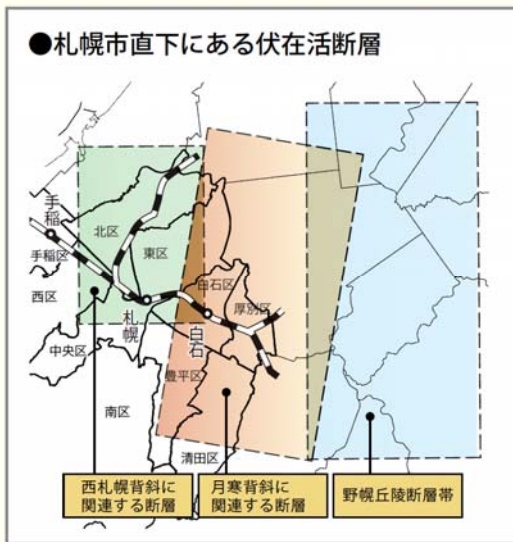


東京大学地震研究所





# 札幌市の評価による札幌市直下の伏在活断層

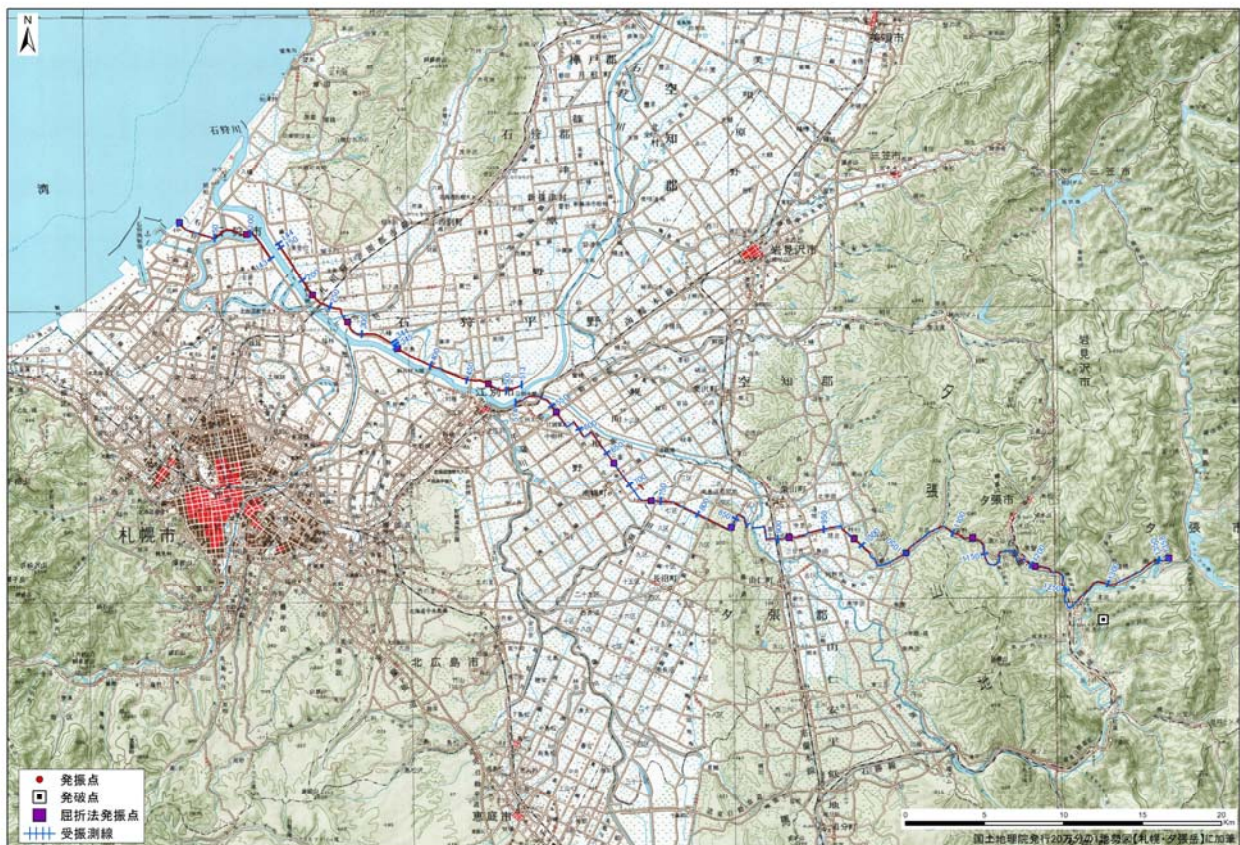


断層は東傾斜と推定

平成20年度札幌市防災会議 第三次地震被害想定

新たな構造探査を行い、伏在断層の深部形状を解明する

## 石狩平野横断構造探査測線図





# H29 石狩平野横断地殻構造探査 データ取得仕様

測線長: 68.5 km (投影測線上)

## 発震系

震源: 大型バイブレータ 4~5台

スweep周波数 3~40 Hz sweep長: 20 秒

標準発震点: 50 m, 100 m間隔 一箇所での発震回数: 3~8回 計 730点

集中発震点: 4 km 間隔 計 15 点

ダイナマイト発震: 100 kg 含水爆薬 孔底深度: 44.75 km

## 受振器

受振器 10 Hz (1-618 ch), 5 Hz (619-1208ch), 4.5 Hz (1209-1358ch)

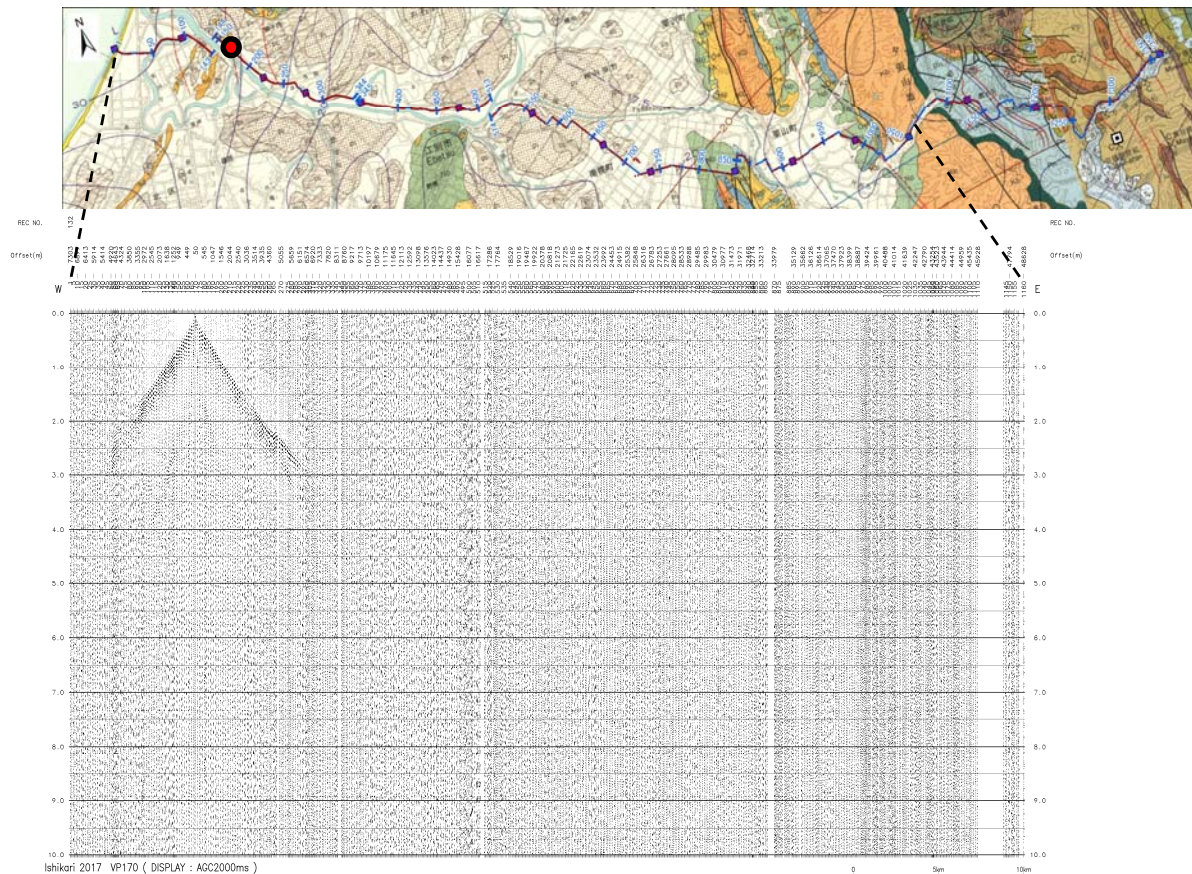
展開パターン 固定展開

総チャンネル数 1358 ch

観測器 GSX, GSR (独立型) サンプリングレート 4ms

記録長 16秒

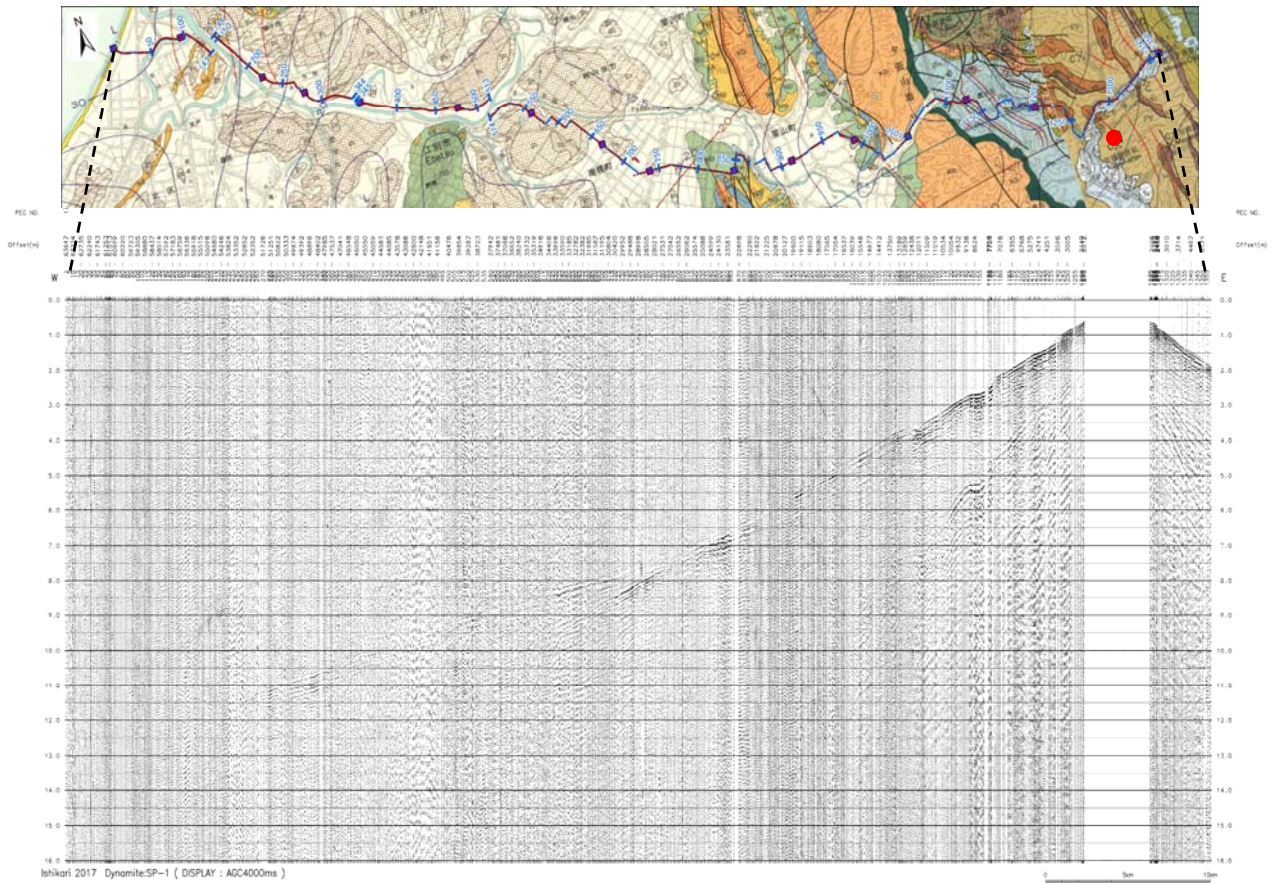
観測モード 連続



反射法発震記録 [3] VP170

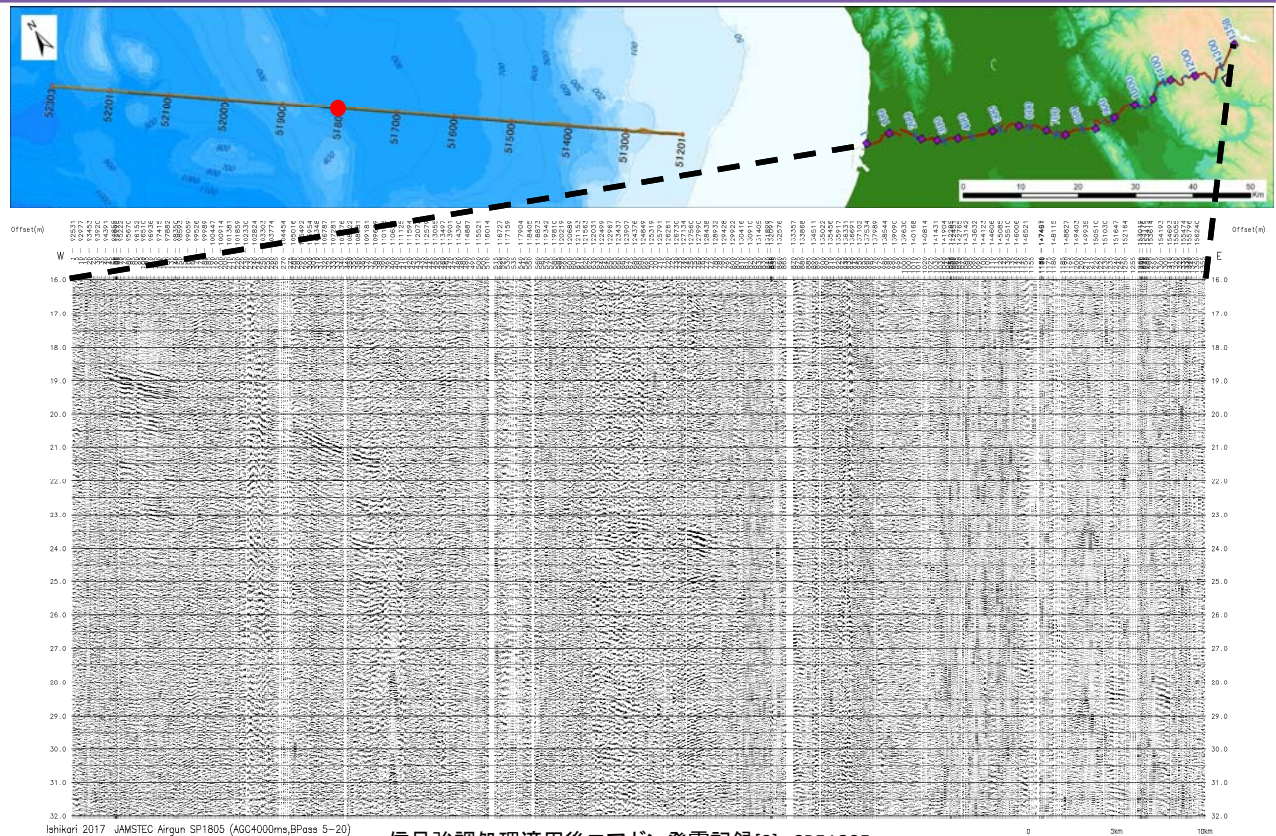
発震系仕様概要: 大型バイブサイズ車4台, 出力エネルギー70%, sweep回数3回 / 表示: AGC(2000ms)





広角反射法及び屈折法発震記録 [17] SP-1D (含水爆薬による発震)  
 発震系仕様概要: 薬量100kg, 孔底深度44.75m, 装薬長17.65m / 表示: AGC(4000ms)

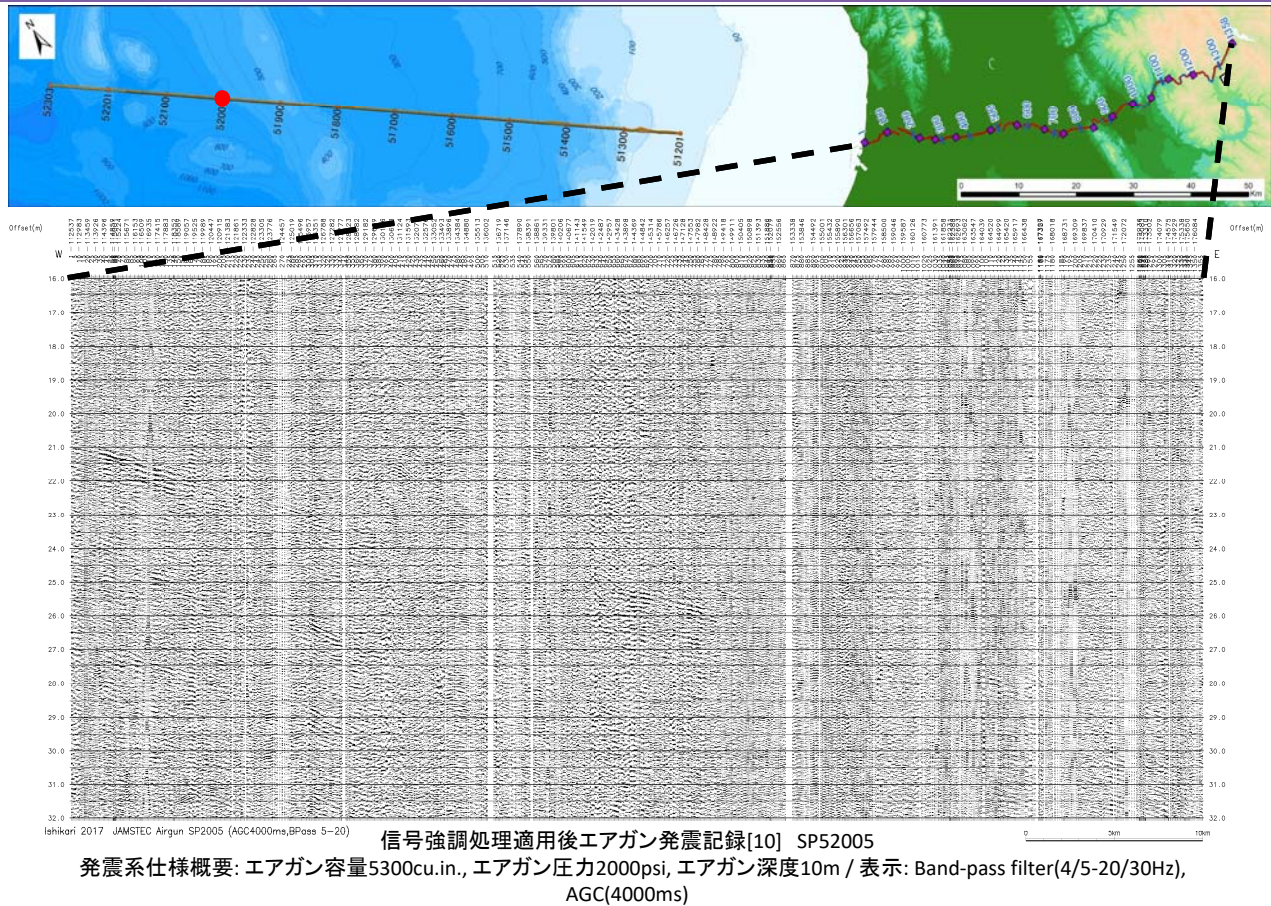
## 海上発震の受振記録



信号強調処理適用後エアガン発震記録 [8] SP51805  
 発震系仕様概要: エアガン容量5300cu.in., エアガン圧力2000psi, エアガン深度10m / 表示: Band-pass filter(4/5-20/30Hz), AGC(4000ms)



# 海上発震の受振記録



## まとめ(陸域)

- ・海陸統合地殻構造探査の一環として、石狩平野を横断する約70kmの区間で、反射法・屈折法による地殻構造探査を実施し、良好なデータを取得した。
- ・石狩平野東縁断層帯の西方、野幌丘陵断層帯の地下延長と推定される東に傾斜する逆断層の形状が明らかになった。
- ・深度断面の作成・速度構造の解析などにより、石狩平野下に伏在する断層の評価に資する解析を進める。

# 平成30年度 渡島半島横断地殻構造探査

